

議 事 録

会議の名称	令和元年度 第1回 愛荘町総合教育会議
開催日時	令和元年度 6月25日（火）午後3時00分
開催場所	秦荘庁舎 2階 大会議室
出席者	<p>【構 成 員】7名 町長 有村 国知、副町長 石田 政則、教育長 徳田 寿 教育長職務代理者 森 秀昭、教育委員 松浦 延代 教育委員 中村 由香里 教育委員 八島 琢磨</p> <p>【事 務 局】7名 政策監（総務）上林 市治、政策監（福祉） 岡部得晴、 教育委員会事務局 次長 青木 清司、学校教育担当 課長 田中幹雄 教育委員会事務局 生涯学習課長 本田 康仁 教育委員会事務局 教育振興課主査 久保 泰代</p> <p>【傍 聴 者】2名</p>
議事日程	協議・報告事項 ・「全国学力学習状況調査の公表について」 ・「愛荘町教育大綱策定について」
議事録作成者	教育振興課 久保 泰代
青木次長	午後3時00分開会
議長（有村町長）	<p>ただいまから令和元年度第1回愛荘町総合教育会議を開催いたします。はじめに有村町長からご挨拶をお願いいたします。</p> <p>皆様こんにちは。教育委員の皆様には朝から各学校訪問にお時間をいただきまして心から感謝申し上げます。今日は議会の先生方と一緒に訪問させていただきましたので、私ども行政と議会の先生方と連携をしながら教育委員の皆様からも様々なご意見をいただき共通の理解の下で進めていけるということは大変良いことだと思いながら一緒にさせていただいております。この4月2日から徳田教育長を教育長としてお迎えをし、愛荘の教育全般、特に学力の向上ということに関して力をいれていただいております。今日は令和元年度の第1回の総合教育会議でございますけれども、さまざまなご意見を賜ってまいりたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
青木次長	<p>ありがとうございました。それでは本年度第1回の総合教育会議ですので、順番に自己紹介をよろしく申し上げます。</p>

	— 順次、自己紹介 —
青木次長	<p>それでは会議の運営につきましては、愛荘町総合教育会議設置要綱に基づき進めさせていただきます。</p> <p>設置要綱第4条規定により町長が議長になることから、会議の進行を有村町長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。</p>
議長（有村町長）	<p>それでは設置要綱に基づきまして、議長を務めさせていただきたいと思っておりますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p>次第の3 議題の協議事項、「全国学力学習状況調査の公表について」事務局より説明をお願いします。</p>
教育長 青木次長	—事務局より説明—
議長（有村町長）	ありがとうございます。委員の皆様にご意見を賜りたいと思います。
八島委員	基本的な考え方は賛成ですが、文章による公表と書いてある下に今後の具体的な指導にかかわる改善策と書いてあります。いつから等具体的な内容を明示される予定はありますか。
教育長	<p>ありがとうございます。基本的には出来ることから各学校でやっていくということですので、明示できるものは明示させていただきますし、即座にやるものについてはそのように明示したいと考えております。</p> <p>すでに中には、分析の結果今後打ち出していくものと今すでに始めているものとが重なる部分もございますので、そのあたりも含めて記載していきたいと思っております。</p>
八島委員	今日訪問をした時に議員さんの方から話があったと思いますが、まちづくりで読書をしましょうというような提案があります。それがこの結果に出るのかわかりませんが、いろんな数値を公表することはあまり意味がないと思います。町として教育をするうえでいろいろな仕組みを作り、県平均から下がっているのであれば、そのどこが悪いのか、仕組みづくりの提案があって、一年後二年後に反省が出来る。それを繰り返し子ども本来の指導によい仕組みを作っていけば、成績が上がってくる。それを毎年繰り返したらいいのではないかなと思います。

議長（有村町長）	ありがとうございます。大変大事な意見をいただきました。
中村委員	公表するのはいいのですが、これは町全体の一般向けですよ。愛荘町の皆さんとしてはよいのですが、子ども一人一人の親として見るのにはあまり意味がないと思います。もし公表されるのであれば、小6で受けた子が中3で2回目を受けた時、その比べをして欲しいと思います。今年中3の時の出来とその子が小6だった時の出来を比べて自分の子が成長しているかどうかを親御さんは知りたいと思います。ここに公表しなくても、自分の子の学力が上がっているのか下がっているのか親は知りたいと思うので、個に向けた発信をしてもらいたいと思います。皆さんが知りたいということで説明責任という意味では大事だと思いますが、実際子どもを育てている親としては物足りないのではないかと思います。
教育長	6年生の時にこの調査を受けた子どもさんは個表をもらっていると思います。中3の調査も同じようなものがありますので、それを比べてもらうことも一つは可能かなと思います。毎年受験する子が違い平均正答率の条件が違うので数値も変わってきます。しかし全体的なことを見て方向性を決めていくことも大事なかなと思いますので十分しっかり見ていきたいと思います。また公表の際に要望のある項目についてどのように資料を使うと、よりわかりやすいのかということをも十分検討していく必要があるかなと思います。
議長（有村町長）	ありがとうございます。大変重要な視点であると思います。全国で今のご意見に沿えるような例があれば求めていくのも大事であるなと思います。ありがとうございました。
森委員	正直言いまして分析に非常に苦勞をしたという記憶があります。結果を見てこういうところが弱いというところが出てきます。学校の中では協議をして、ここが弱いからこういうふうにしていこうと話し合いもしますが、本当にこれをしたら良いのかというのがなかなか見えてこないというのが事実です。学校が分析をして取り組みをしても子ども達の力をつけたことにならないし、やってもむなしさを感じるがあった。全国でもいろいろな取り組みをされていて、実際我々も福井にも視察に行ったがその教育委員会としては特に何もしていないという答えしか返って来ません。しかしうちの地域は3世代が多いです。と言われた。家に帰った時におじいちゃんおばあちゃんと先に勉強をしてから遊ぶ話や、家に帰ってきた時に子どもに今日どうだったと声かけをする話、たわいない話が子どもの学力向上に影響しているのではないかという話をされていたので

	<p>なるほどと思ったことがあります。</p> <p>しかし福井の先生方が言われたのですが、小学校のうちはいいのですが、課題は中学校になると学力が落ちていくと言われた。小さいうちはおじいちゃんおばあちゃんから力をもらっているという部分が大きいですが、自我が芽生えて自分の生活になってくるとそれが自分の力でやってきた部分ではないものを感じられた。そのため自分の学校はその話をヒントにした時にどういうふうに出来るだろうかということではいろいろな取り組みをやってきました。でも本当に学力をあげるためになにが一番必要だというのが完璧に見ることが出来ない難しさがありました。いろんな研究されている先生でも見極めが難しいと言われ、どういう指導でどう学ばせるかが、滋賀県だけ、愛荘だけの問題ではなくほかでも苦労されているのかなと感じています。</p> <p>でもその中でも、何かをやっていくことに大きな価値があると思います。先日の教育委員会でも話していたのですが、もっと本を読んだり、読む楽しみができる子、学校では読書の時間など結構読んでいるのですが読みきれていないので自分のものになっていない。読んでよく理解している子は家に帰ってお母さんに「こんなのを読んだよ」と話をしたら、お母さんも「この話知っているわ」ということで話が盛り上がったと、やっぱりそういうバックアップが必要だなと思います。私も今だから言えるのですが、学校だけで何とかしようと思っても無理があったなと反省が残っています。今愛荘町はまちじゅう読書というすばらしいものに取り組もうということですので、それがもっと具体的に愛荘町の中にどんな形でもいいので入っていくとよいと思います。本を一日でも見ないと気がすまないというような人がもっと増えていってもいいのではないかと思います。具体的にどのようにすることがよいのかわかりませんが、家庭、家族が読書は大事であるということ子どもに伝え、家庭の中にも入っていけるようなことを考えていければなあと思います。</p>
議長（有村町長）	<p>ありがとうございます。拝聴できてうれしいです。もともと現場で指揮を取っていただいていた先生の話、今子ども達と向き合っていて先生方や保護者の方にもお話を聞いていただくといいのかなあと思います。教育長からもお願いします。</p>
教育長	<p>我々が学力向上策で目指すものは何なのかと考えた時、学力調査の点数を上げることではございません。我々が目標としないといけないのは新しい指導要領やこれからの社会が必要としている学力を子どもたちに身につけさせることに尽きると思います。これまでの調査の中からこれからの社会が求めている学力のベースとして必要な力が今の本町の子供達に</p>

	<p>は色濃く欠けているのではないかということが次第に明らかになりつつあると思っています。その一つが基礎的読解力、簡単にいうと教科書の意味も含めて読めるかどうかという力だろうと思いますので、その力をしっかりつける。それからこれは学校現場のほうでも言われていることですが、今年度の調査においても非常に文章の分量が多くあります。しっかり読み込まないと解答できないような設問がほとんどです。算数数学科ですと、数学的な考え方を問うていますが実際には問題の意味をわかっていないと、公式をどれだけ知っていてもそこに当てはめられないということになりますので、そのあたりをこれから新たに施策でやっていく部分も含めて成果はどの程度あったのか、そして依然として残っている色の濃い課題は何なのか、ある学校ではどんな取り組みが成果を挙げてきたと考えられるのか、今までばらばらでやってきたのをもっともっと取りまとめて一本化して共有化して財産にしていくという必要があるかと思います。</p>
議長（有村町長）	<p>ありがとうございました。</p>
松浦委員	<p>全戸配付で資料の公表をされるということですが、家族に子どもや直面するものがないというお家に対して配付した時にマイナスの資料とならないような公表をして欲しいです。批判というのは簡単に言えますが、褒めるというのはなかなか難しいと思います。そのためこの全戸配付によって非難がないようにマイナス資料とならないような活用のしかたをしていただきたいと思います。それに基づいてお年よりはボランティアで公民館の〇〇活動に子どもたちに接してあげて昔の遊びや本の読み聞かせ、本読みの習慣付けやプラス方向に持っていけるような資料であればそれはとても活用しやすくよいことだと思います。そしてこの全戸配付のねらいはどこであるかということも年齢をおった方でもわかりやすい広報の仕方をしていただければいいかと思います。</p>
議長（有村町長）	<p>松浦委員ありがとうございます。非常に子ども達を愛するがゆえの発言をいただけたと思います。</p>
教育長	<p>今回は新たな踏み込んだ公表の仕方をしますので、最初にご批判も、違った方向での受け止めがあるということも覚悟しなければならないと私は思っております。ただこの先、焦点化したいろいろな学力向上策をしていく中で、数値が上がったということよりも各校でこんな取り組みをして子ども達が変わってきたということを今後よりたくさん載せていけるといふプラスの部分もあるのかなと思っております。全戸配付して直接小中学校の子どもさんのいないお家にもお知らせさせていただくのはまちじ</p>

	<p>ゆう総ぐるみでこうした課題に取り組むそのことは世代を超えてみんなが学ぶ力をつけていろんな生きる力を身につけていくことが豊かな人材が育っていくということで全ての住民にとってプラスになっていくのかなあと思いますので、そうした観点もご理解いただけるよう努力していくことが必要なことかなあと思います。</p>
議長（有村町長）	<p>ありがとうございます。</p>
副町長	<p>皆さんのお話を聞いておりました、なるほどという話ばかりでした。学力テストの結果によると具体的な対策ですぐに学力向上を結びつくかということになりますとなかなか難しい。総合的な家庭、地域、また学校での取り組み全てが総体として現れてようやく学力にも反映していくと思います。今まではどこが弱いかということ具体的な数字として出ていなかったのが今回は公にして皆さんに知っていただくということで問題意識を持っていただいてどう対応していくのかということ先生にも考えていただくということでプラスに働くと思っております。学校ごとに対策を講じていこうというお話が中心になっているのですが、先ほど森先生のお話にもありましたように、学校間同士でそれぞれ弱いところ、強いところをどうしていったら良いかということ情報を共有していく形の場をもうけて町全体でどういう対策を講じていくのがよいか、学校で出来ること町全体でする事、いろんな視点も出てくると思うので、そういった部分を持って改善策を検討できれば、よりプラスになるのかなあと聞きながら聞いておりました。</p>
議長（有村町長）	<p>副町長ありがとうございました。</p>
	<p>公表ということについては、委員の皆様もご理解をいただいてご賛同をいただいているということだと存じます。</p> <p>各学校の対策のみではなく全町的な対策をしていくことや、また松浦委員がおっしゃられたようにこの公表が皆さんを鼓舞するような材料になるとよいと思います。中村さんからの発言に対しては愛荘町でやっているそれぞれの状況把握テストがどのように活用できるかなあと聞きながら拝聴しておりました。八島さんからも仕組みをしっかりと策定していくのが大事だとおっしゃっていただきました。ありがとうございました。</p>
青木次長	<p>続きまして資料2の「愛荘町教育大綱策定について」に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。</p> <p>—事務局より説明—</p>

議長（有村町長）	<p>ありがとうございました。今スケジュールも含めて策定にあたっての施策をお示しいただきました。委員の皆様からご意見を頂戴いたしたいと思っております。</p>
教育長	<p>次長の説明の中にも人生 100 年という言葉がありました。今までは学校教育にウエイトが重くなっていましたが、はるかに学校を出てからの期間の方が長いので、今後の生涯学習のありようをどうするのかということは相当に時間をかけて論議をする必要があると思っております。教育大綱に示すのはその骨組みの部分のようなものになると思っております。さらに具体的な部分については継続して生涯学習の今後の推進計画的なものを、引き続き違った組織で議論していく必要があるのかなと思っておりますので、生涯学習の部分について終期が決まっているからあわてて作るのではなく、それはそれで重く受けてとめて議論をしていく必要があるのかなと思っております。</p>
議長（有村町長）	<p>ありがとうございます。</p> <p>今私が、町長という任に当たらせていただいて、特に福祉の分野等でさまざまな計画の策定をしていただいております。その際にも大綱や計画をシンプルな形にして、何をこの計画で目指すのだということを当事者にすぐに伝わるような形にしないと意味がないと伝えております。ページ数が多くなればなるほど資料を作る事務局も確認作業が出てきて職員が深夜まで仕事をしているような状況になっています。事務の軽減を主眼においているわけではないのですが、本来的に目指すものはどんどん削いでいったらこれだというものが残ってくるので、そこを中心に最初に持ってくるべきだと各種計画を策定する際に各担当課にお願いなり、指示をしています。以上です。</p>
八島委員	<p>その他で、今日学校訪問させていただいて小学校も中学校も幼稚園も、福祉的部分では加配をしたり外国語専門の講師を置いたり愛荘町は充実していると思っておりますが、愛荘町は福祉的な部分でも教育的な部分でも全国に比べて教育は進んでいる町ですというのを目指したほうがいいのではないかと思います。平均的な子どものレベルをさらにあげるという仕組みを町の予算を使って 5 年計画位でやるとよいと思っております。学童保育が現在各学校単位でされていたのを一本にしようとしている。学童保育＋教育、塾とまではいいませんが補習をするクラスをつくるというのを考えていくと、愛荘町は子どもの学力も上がってくる福祉の面も充実して人も増えてくる。そして両方で繁栄し、町の未来を担う子ども達が増えるということを考えれば、教育の町として全員の平均の学力を上げるということに他</p>

<p>議長（有村町長）</p>	<p>の市町よりもお金を使って人も増員するとよいと思いますのでご検討をお願いします。</p> <p>八島委員ありがとうございます。そのとおりだと思います。</p> <p>福祉の部分と共に教育の部分の充足をしていきたいと思っております。私が、町の職員の皆さんにお願いしているのはリアクティブな仕事は辞めようと、何かことが起こってそれを修正しに行ったりお詫びに行ったりと、皆のエネルギーも損なわれるし前向きな仕事に費やす時間もなくなってしまう。求める結果があるとすれば、それに近づいていけるような環境整備をする、プロアクティブな仕事をしていって欲しいと思います。そんな点で目指していく町の形にはどういう人材がこの町にいてほしいかということを考えながら人材育成をしていくことが大事と思っています。そこに予算を手厚くするためにも町内で重複している物事にかなり覚悟を持って切り込んでいかないと現状維持のままになりかねないとかかなりの危機感を持っております。今日3校行かせていただいて私が感じたことがございました。それは何かと言いますと自分の主体的な働きかけを持って意欲的にやっているという力が弱いです。というのが共通して3校から意見がございました。また読書をしたり意見を聞いたりした上で自分の意見を発信する力が弱いという意見が出ていました。その2つが弱いというのが出ていたのは非常に残念に思いました。農業であったり製造業が産業の主体であった時代はフォロワーというかチームの中に引っ張っていただけたのでそれでよかったのかなと思っています。今、製造業だけでは生きていけない、より企画力であったり想像力であったり創造性ということが重要になってきている時代においてフォロワー的な人材の育成というままではだめだろうなと思っています。今日課題として上がってきたものが全て製造業の時代であれば景気が伸びているのに伴って自分も充足した人生が歩めたのでしょうが、今はなかなかそういう時代ではないと思います。自分で自ら切り開いていく主体性が必要だという時代ですのでその観点をより教育の中で危機感を持ってやらないといけないと思っております。町でも文化や多様性というものをしっかり重点におきたいと思っております。同調圧力というものが社会に出てもあると思いますが、教育の現場においてもあいつだけ目立っているなというのでその子の創造性が損なわれてしまう、もしくはいじめの対象となってしまうのは絶対に避けたいと思っておりますので、多様性ということに価値をおく、こんな輝き方があるのだということを皆で応援してあげられるように学校の先生にも保護者にも力をいただきたいと思っております。</p> <p>また公表の議題ですが、私は現状を打破することだと思います。現状を打破するためには行動を伴うということです。今回公表をするというアク</p>
-----------------	---

	<p>ションをしていただいて行動をしますと責任が伴ってきます。一年一年の覚悟というのが、学校の先生や特に保護者の皆さんに覚悟を求めていくというアクションに繋がると思います。今の実態を保護者の皆さん方、先生方に覚悟を持っていただき、その覚悟を持った親の背中を子ども達は見ていくと思いますので、まずはスタートラインをしっかりと環境整備していただいて一步を進めていきたいと思ひます。</p> <p>委員の皆さん方にはご指導いただひていることあらためて感謝お礼を申しあげます。いつもありがとうございます。</p> <p>以上です。</p>
青木次長	<p>それでは教育長より閉会のあいさつをお願いします。</p>
教育長	<p>それでは閉会にあたりまして一言ごあいさつを申しあげます。総合教育会議ということで非常に限られた時間ではございましたが、貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。</p> <p>話は少し変わりますけれども、今日ニュースを見ておりましたら茨城県では実質同姓婚を認めるような制度ができるという話ですとか、川崎市の方ではヘイトスピーチに対する罰則規定が設けられるというようなニュースが流れておりました。いずれも今まででしたら考えられないようなことではないかなと私自身は感じております。町長の方からも現状を打破するというような話がありました。今日の午前中の訪問、今の会議もそうですけれども、私はいろんな皆さんの意見を聞いておひまして、今こそ愛荘版の令和の教育改革を断行しなければならないというふうに固く思っただころです。それぞれいろんな方々が、いろんな立場で教育に対する熱い思いを持っていただひておひます。それをこの際しっかり結集して力を発揮して明るい子ども達の未来につなげられたらなあと思ひておひますのでよろしくおひします。本日はありがとうございます。</p>
青木次長	<p>ありがとうございます。以上で本日の協議事項は全て終了しました。</p> <p>皆様におかれましては午前の学校訪問から総合教育会議まで長時間ありがとうございます。</p> <p>以上で令和元年度第 1 回の愛荘町総合教育会議を終了したいと思います。</p> <p>午後 4 時 10 分 閉会</p>